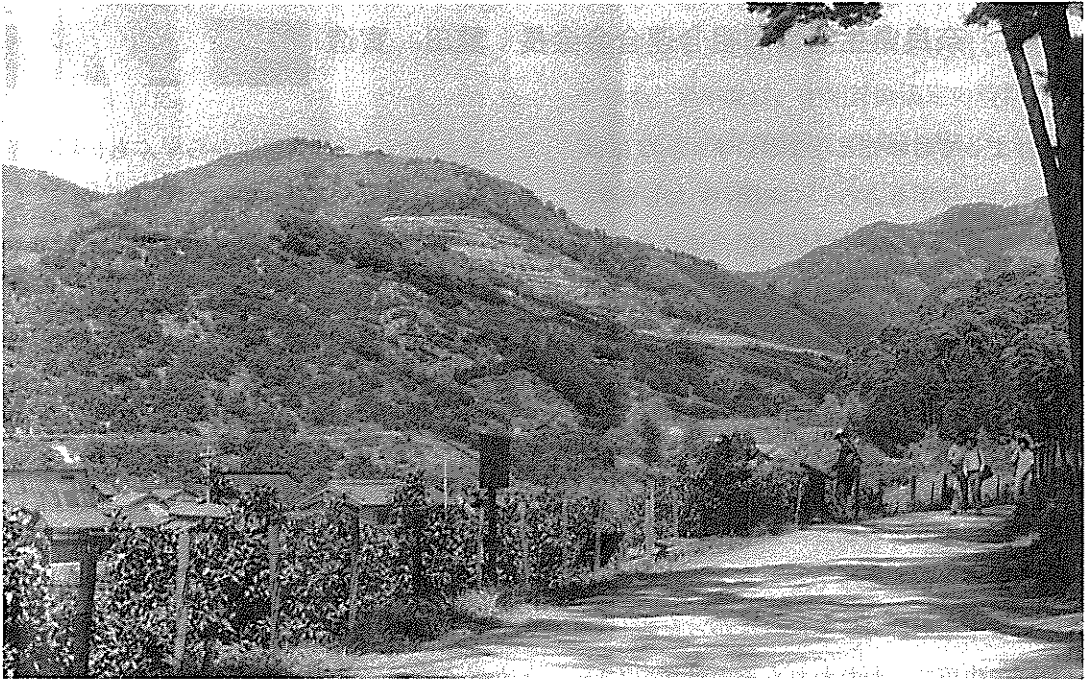


なら生協連 ニュース

No.21
96.1.12

奈良県生活協同組合連合会
奈良市唯1丁目2-2 ならコープ気村
☎(0742)34-3535
FAX(0742)34-0043

山の辺の道を歩く PART-6



<穴師の山と車谷の里>

まきむく 穴師の山に 雲居つつ 雨は降れども 濡れつつぞ来し
ひさかたの 雨の降る日を わが門に 簑笠着ずて 来る人や誰

作者未詳

桜原神社をあとにして、三輪山のふもとの小道を東にすすむと、突然眼前がひらけて明るい日差しの中に穴師の山々が現れる。

みかん畑の麓に点在する車谷の集落。小さな音をたてて流れる巻向川のせせらぎ。万葉の昔が今も息づいている絵のような風景である。

雨の中をぬれながら恋人の元に駆けていく若者。こんな雨の中をぬれながら来る人は誰？ とわかっていながら意地悪な返事。

この問答風の二首は巻向川のほとりに生きた人々の生活の中から生まれた歌であろう。それだけに現代にも相通じる響きを持っている。

頼りがいのある 生協をめざして

奈良県生活協同組合連合会会長 繁田 實造



あけましておめでとうございます。なにはともあれ、今年もよろしくお願いいたします。われわれの奈良県生活協同組合連合会が結成されて、今年で七年目の年を迎えることになりました。平成二年三月、五生協で発足した奈良県連でしたが、去年は奈良県立商科大学生活協同組合を新しい県連メンバーとして迎え入れる事が出来ました。今年も新しい生協を設立しようとの動きがあります。県立商科大生協の場合もそうでしたが、今設立の動きのある生協も、今までにはなかった新しいタイプの生協で、われわれもその設立を大いに期待しているわけです。奈良県生協連は、全国の都道府県連の中では小さい規模の県連であるといえますが、それだけに小回りがきき、細かいところまで手が届きますので、新しい生協組織の分野の開拓にもむいているのではないかと思います。山椒は小粒でぴりりと辛いといわれていますが、われわれの県連も生協運動のなかで、山椒のような存在になるように頑張りたいものだと、どこかで話したことがあるのですが、まさにそのような存在に成長しつつある事を大変誇りに思っています。

ところで、阪神大震災から早くも一年が経過いたしました。われわれの周辺でもいろいろな意味での犠牲者をだし、大変な出来事でありました。コープこうべをはじめ、兵庫県やその周辺の多くの生協にも大きな被害をだしましたが、その被害のなかで、地元の被害を受けた生協は申すに及ばず、全国各地からの支援生協がその復興のために、大きな力を発揮したことはいろんな報道機関によって伝えられました。大手スーパーと違い、なぜ生協だけがこのような目覚ましい活動ができたのか、不思議に思われていますが、日頃から顔と顔とを突き合わせるだけでなく、そこに会話を介在させ、よりよい暮らしを求めてともに生きてきた人びとの繋がりのあったことが、このような活動を生み出した大きな理由の一つだといわれています。だれもが予想しなかった災害に際して、予想もしなかった大きな力を発揮した生協と讃えられるのも有難いことです。普通の日常生活の中においてさらに大きな力を発揮しうる、頼りがいのある生協となるために、お互いに今年もがんばることを誓って、年頭の辞とさせていただきます。

奈良県環境審議会に

出席して

ならコープ副理事長

仲宗根 迪子



昨年12月19日 平成7年度奈良県環境審議会が開催され、奈良県生協連環境部部長として出席しました。メンバーは40人、学識委員20人、県議会より7人、行政関係者4人、市町村長2人、産業界より6人、県生活環境部長という構成で、県のお話では男女共同参画を推進するために女性が9人(22.5%)、県民の声を反映させるために消費者の立場を6人入れられたという事で、環境計画を進めるにあたって全体で取り組もうという積極的な姿勢を感じました。

審議事項は『奈良県環境総合計画』と『悪臭防止法施行規則の一部改正』の二つ。『奈良県環境総合計画』は県の総合的な環境ビジョンを示すもので、これは環境基本条例や環境アセスメント、管理計画等に具体化され、また関連する他の施策にも反映させることのできる重要な位置づけを持ったものになっています。2回の小委員会を経て1月末をめどに答申されます。

奈良県の特質である自然や歴史的風土の保全、都市型公害対策やリサイクル型の生活・社会活動の提案等、地球環境も視野にいれながら、地域別の対策、行政・事業者・県民の

行動指針が盛り込まれています。

私の役割は生活者の視点でチェックし要望することですので、生活の快適さの追及は環境負荷につながることの自覚の大切さと、プランづくりの段階で県民が参画できるようお願いしました。

奈良県は大きな産業公害も少なく、生活の身近なところにまだまだ豊かな自然が残っています。しかしそれが脅かされているのも事実です。県が謳う『環境の保全と創造』を実行していくのは私たち県民の知恵と行動でしようし、いつまでも住んでいて良かった街でありたいと願います。

「あれから一年」

兵庫県生活協同組合連合会 常務理事 河野 正男

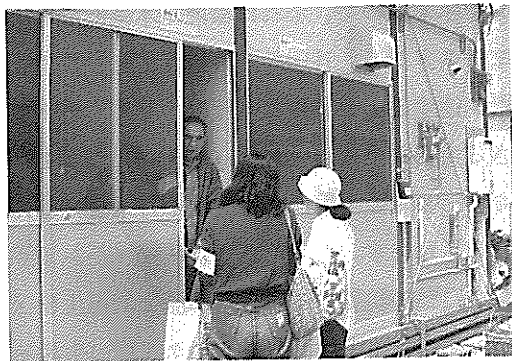
早いものであの震災から、一年が過ぎようとしています。思えば、ちょうど一年前の1月17日、突然の大地震が襲いました。あの忌まわしい数十秒間は、多くの歴史ある生協施設をも崩壊させました。それからこれまでの一年は、復旧復興に追われる必死のあつという間の日々だったといえます。兵庫県下の生協は市民の暮らしを守るために精一杯の努力をして参りました。が、もっとも忘れられないのはこの事をニュースで知った全国の生協の多くの仲間たちが、いち早く、並々ならぬご支援と励ましをくださったことです。このことで我々はどんなにか支えられ、悲しみから立ち直り、勇気づけられたかしれません。特に、ならコープをはじめ奈良県の生協のみなさんには、震災直後から被災者への炊き出しや、生協へのお見舞いに早々に駆けつけていただき、その後も、震災関連の企画にご助力いただいております。

震災は、つらい体験でしたが、一方で、人とひとが協同する事の大切さを再確認できました。そして、このことは長い生協活動によって培われた「協同の精神」が大災害にあって開花したと言えるのではないのでしょうか。生協の使命は、この「協同」を具現化し、くらしの向上と地域社会の発展に貢献することにあります。不幸な体験は、また、これからの生協運動への新たな確信をもたらしたと言えます。

この震災で、私で役に立てることがあれば、と多数の組合員、生協役職員が生協に詰めかけたことを思うと、まさに地域ぐるみで復旧し、そして復興してきていることが手に取るように感じられます。

しかし、復興の2文字は重く険しいものであることも、また現実です。もとの街並みはおろか、今なお、多くの住民が、自らの地に戻れていない状況がいたる所で存在するので

す。一日も早く、住み慣れた地域での生活に戻れるよう、そして、暮らしよい兵庫をめざして、我々も精いっぱい力を注ぎたいと思います。新年にあたり、改めて、奈良県生協連合会に集う生協の皆様にお礼を申し上げると共に、震災後の経験を基に地域に根ざした生協の「創造的復興」を果たして行く決意です。



仮設住宅を訪問するコープこうべのボランティア

大震災徹底研究

アマチュア防災研究会
事務局長

大 國 康 夫

私たちは、伊藤次栄さんの提案により、「アマチュア地震防災研究会」を2月17日に発足させました。会の規約主旨である「住民の知恵や協力、アマチュアの知恵や協力が防災又は救援の上で大変重要である」ことを1月19日に現地入りした私は実感してきました。それから毎週ボランティアに入りましたとき、協同のあたたかさを感じました。また、生協の強さも感じました。

4月(第2回)5月(第3回)7月(第5回)は森宏之氏(ならコープ常勤理事)を講師にテーマ「地球、地震、火山ーそのメカニズムー」①地球の惑星的特徴 ②地球の進化 ③プレート・テクトニクス理論の発展 ④火山噴火と地震の規則性など沖縄トラフ、太平洋プレートとフィリピンプレートのせめぎあいなどを学びました。

6月(第4回)学習会は「災害とは何か」ー少数の文献からーをテーマに伊藤次栄氏(ならコープ常任顧問)を講師に①災害の種類②災害の特徴③災害の時間的経過④災害時に発生する主な現象⑤神戸で起った主な事例、その他を学びました。

8月(第6回)学習会は「緊急事態発生時の幹部の心構え」をテーマに浅井正満氏(ならコープ総務人事部)に緊急事態の被害を最小限に食い止める対策への幹部の心構えなどを学びました。

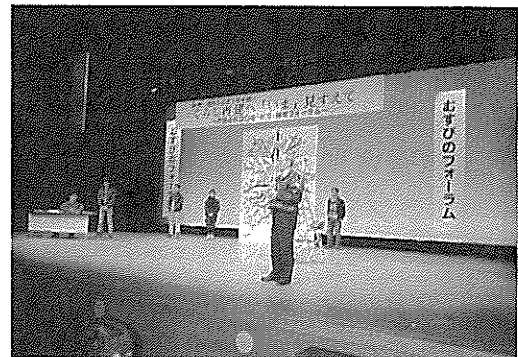
9月(第7回)の学習会は「『共』の概念

でまちづくり」をテーマに小島孜氏(建築家近畿大学教授)を講師に「アマチュアは専門家と生活者の中間、専門的知識と理屈によってではなく『感性と常識』によって客観的に問題をとらえ解決の方向性を探る」など人命を損なわない粘り強い構造で、しなやかに再生できる街づくりなどについて学びました。

10月(第8回)の学習会は「地震とボランティア」をテーマに大國が講師をしました。

11月(第9回)の学習会は「大災害をどうみるか」をテーマに伊藤次栄氏を講師に①日本のリスク管理は大災害を想定していない②大災害は戦災又は戦闘と同じ性質を持つ③自衛隊の装備(部分)④軍事医学⑤自衛隊と世論⑥自衛隊と災害派遣政策の変化などについて学びました。

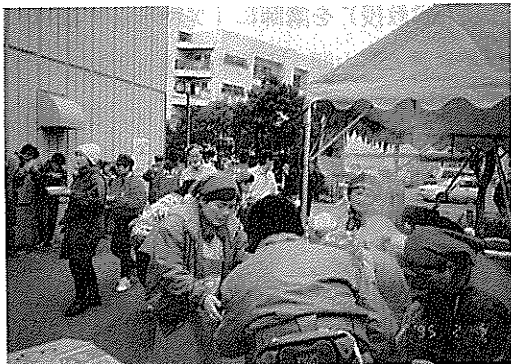
1月にこの1年間の学習会まとめ集を作成予定。資料の希望者は連絡をください。



12月10日ー市民とNGOの「防災」国際フォーラムーでご挨拶するコープこうべ増田副組合長

'95 10大ニュース

1. 阪神大震災へのボランティア！



ならコープボランティア本部の温かい炊き出し

- ①奈良県行政へ『災害時における緊急生活物資供給等の協力に関する協定書』の提案。
- ②各生協で人的支援及び募金活動が行われました。
- ③ならコープボランティアによる「コープ汁」の炊き出し（毎週日曜日）が行われました。

4. 被爆終戦50年のとりくみ



10月21日沖縄県民総決起集会

7. 障害者列車「ひまわり号」へのボランティア参加・その他の福祉

- ①「ひまわり号」列車へボランティア15名参加。500食の豚汁づくりをしました。
- ②ならコープ福祉政策完成。
- ③ならコープヘルパー講座2級3級開催。労済生協ヘルパー講座3級開催しました。

- ①95奈良県市民平和行進は組合員の努力により過去最高の行進参加者がありました。
- ②奈良県、郡山市、三郷町、王寺町など平和行進の協力がありました。
- ③青年団、YMCA、農協中央会などとの共催、協力関係が強まりました。
- ④世界法廷署名に桜井市、田原本町、斑鳩町、東吉野村の首長署名がありました。
- ⑤「米軍による少女暴行事件を糾弾し米軍の地位協定の見直しを要求する沖縄県民総決起集会」に2名が参加しました。

8. 公共料金の値下げに取り組みました

- ①関西電力、大阪ガスの民間公聴会を開きました。
- ②関西私鉄6社と運賃問題協議会をもちました。

ース (奈良県生協連版)

2. 県立商科大学生協設立

1月26日(木) 設立総会をして出発
事業も好調に推移しています。

5. 5周年記念奈良県生協大会

- ①各生協の活動交流が十分できました。
- ②新協同組合原則の学習をしました。



県連の理事さんたちの紹介

9. 「食の安全」を守ろう!

- ①牛乳公協へ製造日表示許可への抗議文を送りました。
- ②神山美智子氏講演で輸入食品の安全性と新食品衛生法を学びました。

10. リサイクル法施行

奈良市地球環境賞をならコープおしくま、北部支所が受賞しました。

3. 県審議会への代表参加実現!

- ①「奈良県消費生活審議会」委員に繁田實造会長が委嘱される。
- ②「奈良県環境審議会」委員に仲宗根迪子環境部会部会長が委嘱される。
- ③「21世紀やまとむらづくり塾」の非常勤アドバイザーに瀧川潔専務理事が委嘱される。

6. 新協同組合原則 I C A 大会で確認される。

定義

協同組合は、協同で所有し民主的に管理する事業体を通じ、共通の経済的・社会的・文化的ニーズと願いを満たすために自発的に手を結んだ人々の自治的な組織である。

価値

協同組合は、自助、自己責任、民主主義、平和、公正そして連帯の価値を基礎とする。それぞれの創始者の伝統を引継ぎ、協同組合の組合員は、誠実、公開、社会的責任そして他人への配慮という倫理的価値を信条とする。

原則

- 第1原則 自発的で開かれた組合員制
- 第2原則 組合員による民主的管理
- 第3原則 組合員の経済的参加
- 第4原則 自治と自立
- 第5原則 教育、訓練および広報
- 第6原則 協同組合間協同
- 第7原則 コミュニティへの関心

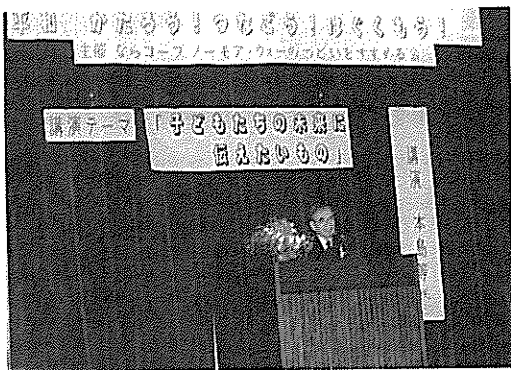
— 広がる協同・くらしの輪 —

被爆・終戦50年特別企画

’95ノーマア・ウォーのつどい開催される

12月2日(土)～3日(日)大和郡山市南部公民館に於いて『平和、かたろう・つなごう・はぐくもう』をテーマに開催されました。

初日は、前長崎市長の本島等氏が「こどもたちの未来に伝えたいもの」と題した講演を行いました。211名の参加者に、戦争の怖さや命の大切さを訴えました。



講演中の本島氏



アジアいどばた会議での留学生たち

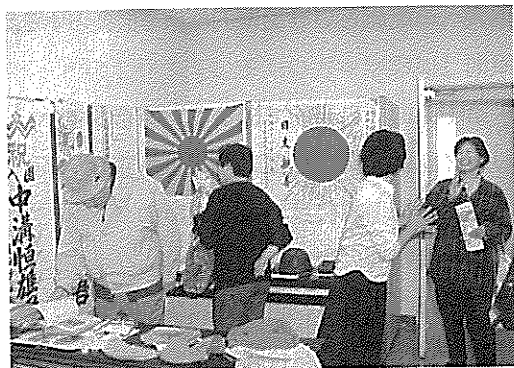
3日(日)午前10時から、中国・韓国・マレーシアなどのアジアの留学生が戦争などについて語り合う「アジアいどばた会議」が行われました。

午後1時30分からは、映画「エイジアン・ブルー」の上映会が行われました。参加者は106名でした。

—アンケートより—

アジアいどばた会議の参加者

日本人である自分達が思いもなかったことが聞けて良かった。どうしても被爆国ということもあって被害者意識が強いけれどもアジアの人々にとっては逆なんだと言う事が実感できた。(20才代男性)



展示に見入る参加者

119円値下げ! (標準家庭1か月310Kw)

「'95電気事業・料金問題民間公聴会」

11月10日(金)関西電力大阪北支店会議室に於いて8年ぶりに行われ、近畿2府4県の代表が発言し、一問一答形式で行われました。尚、民間公聴会は他の電力会社では行われていません。



18団体76名の参加者たち

125円値下げ! (標準家庭)

「'95ガス事業・料金問題民間公聴会」

11月13日(月)大阪ガス本社会議室に於いて、近畿2府4県の代表発言をしました。大口と小口が個別経理になり、私たちにはわかりにくいものになりました。



司会を務めた大國事務局長

LPガス流通改善シンポジウム

11月2日(木)滋賀県大津市・滋賀ビルに於いて、LPガスについての流通・価格について事業者と消費者の意見を交わすシンポジウムを開催しました。

「LPガスの保安と流通改善の方向」について石油情報センター所長、高橋氏の報告、続いて「LPガス消費者利用実態アンケートのまとめについて」LPガス消費者実行委員会事務局長、谷村巖氏の報告などがあり、LPGか大阪ガスか選ぶのが消費者にまかされていない問題点などが明らかになりました。



熱心に問題提起をするパネラーたち

Environment (環境)

大きく育ったもみの木と共に広がる活動

環境サークル「おしくま・もみの木」 内山 節子

「コープおしくま」の開店に、ならコープの牛乳パック回収の収益の中からもみの木を記念植樹していただきました。

もみの木を見守りつつ活動を続けていこうと「おしくま・もみの木」とサークル名を決め、開店準備委員の有志40名余り集まって、回収活動を開始しました。

牛乳パック、空缶、トレー、ペットボトルの実験回収と、92年5月より毎月1日に順次店頭回収を続けてきましたが、現在は業務回収へ次々と移行し、トレーのみ回収活動を続けています。

私達は広報活動として、組合員の皆さんに何か楽しい催しを通じて、環境問題に関心を持ってもらいたいと思い、毎年1回「もみの木フェスティバル」を開催してきました。環境や平和のアニメ、おはなし、紙すき、牛乳パックの工作等々、多くの方々が参加し、楽しんでいただきました。

93年に生協連より私達の活動を表彰していただき、その時の賞金の有益な用途を考えていたところ、今年度は「地域交響曲第1番」の自主・上映を開催することになり、12月9日コープおしくまに於いて、店舗委員会、わかきこみこみくらぶ、ならコープの協賛を

得て、多数の参加者、協力者と共に、映画を鑑賞する事ができました。と同時に震災で全壊した「神戸母子寮の再建資金」の募金活動も行い、ならコープのボランティアの方に託しました。

今回、回収活動に関わっている私達が待ち望んでいた「容器包装リサイクル法」が生まれました。私達も今の生活をもう一度見直し、よりよい未来を選びとっていけるよう、各サークルや組合員の方々との横のつながりを広げながら楽しく活動を続けたいと話し合っています。



「地域交響曲第1番」に参加者の組合員

このごろの環境活動

ならコープ組合員活動部 福西 啓次

○ 週日、日生協（関西地連）主催の環境フォーラムが開催されましたが、その実行委員会のメンバーとして企画づくりに参加しました。テーマは「探そう元気つくろう未来」。全国的に生協の環境活動も、ちょっと？元気がなくなり気味の中で、暮らしの価値観を見つめ直そうというのがねらいでした。

そんな中で、ならコープの組合員さんは比較的元気に活動されています。フォーラムの後の交流会でも、人気が集中していました。

では、元気の源はというと？？？

○ 最近の活動の特徴について触れてみます。組合員はみな、自分の住んでいる地域で独自の活動を展開しています。こつこつと地味ではありますが、その成果は着実に前進しています。奈良県の環境計画や条例を策定するにあたり、その審議会のメンバーに仲宗根副理事長が選出されたり、奈良市では組合員の活動が評価され、コープおしくまと北部支所が優良事業所として表彰され、天理市を中心とした山辺広域でも、『ごみ減量フォーラム』に参加し全体を盛り上げました。桜井市や橿原市でも行政との話し合いがおこなわれています。さらに、つい先頃、生駒市で行政との懇談がはじまりました。このような活動は、日生協でも今後の活動の柱として位置付け、

提起しています。ご存じのように『容器包装リサイクル法』が成立し、リサイクル社会への枠組みができました。これを、実のあるものにするために、まさに住民が主体となった行動が不可欠となります。誰かからかいわれるのではなく、自分たちの町の問題としてとらえ、自らが主体的に活動し参画する。そんな思いが元気の源ではないでしょうか？



ならコープの環境学習会（右端が筆者）

Welfare (福祉)

人間大好き！料理大好き！

みみなし食事の会 吉田 益代

ある月のことです、高齢者福祉の方が時間になっても来られません。1週間ずれて案内されていたためです。あわてて電話をかけました。すでに食事を済ませた人、準備中の人、色々でしたが、全員参加してくれました。

みみなし食事の会は、1992年6月みみなし店を活動の拠点として発足しました。ボランティアの人達が食事を作り、高齢者（60才以上）の人達と一緒に昼御飯を食べながら、なごやかなひと時を過ごしています。

現在のみみなし店は地域に密着した所ですので、参加される高齢者の方とも顔なじみになりコミュニケーションもうまくいっております。

今年の春高齢者の方が引っ越しされました。店舗の近くに桜の美しい公園があります。そこで送別会を開くことにしました。ボランティア全員（2つのグループに分れています）が参加し、お弁当を作りました。ちょうど桜の見頃と開催日が合い、満開の樹の下でお弁当を開けました。

ボランティアの人達は皆人間大好き、料理大好きです。高齢者の方たちは毎月一回の食事の会をとっても楽しみにしておられます。種類豊富なメニューと仲間たちに会うのが嬉しいそうです。

私たちは常に高齢者の方を中心に活動するように心がけております。その為には私たちが仲良くなるのが大切だと言う事で（言い訳をしています）、新年会をおこなったり、ハイキングに行ったり、また食事の会の後で清拭布を縫って交流するようにしています。

お店の夏祭りや、ならコープ福祉交流集会への参加、去年は「ひまわり号」で豚汁作りでお手伝いできました。

現在21名で活動しています。色んな事にけつまづきながら4年目に入りました。皆忙しい人達ばかりです。無理せずに長く続けていこうねと話合っています。



ボランティアの人達とのハイキングでの吉田さん（前列左から二人目が筆者）

公的介護保険に思うこと

ならコープ常任理事 村城 正

急速な高齢化社会の進行に伴って、老後に不安を持つ人々の割合は増え続けている。この間、国は、ゴールドプランや新ゴールドプランを華々しく打ち出し、全国の地方自治体に保険福祉計画の策定を義務付け、それが出来上がってきた。

今までのわが国の歴史から見て、これらは画期的ともいえる思い切った内容と評価できるが、しかし、それでもすでに「70%以上の市町村が実現が困難と考えている」（毎日新聞調べ）ということが一方で報じられたりしており、決して安易に喜べる状況でもなさそうである。

そんな中で、この間「公的介護保険」の問題がにわかに浮上し、クローズアップされてきている。（今のところ、95年度末には国会に上程。97年にはスタートの予定という、超スピードである。）

長引く不況の中で、寝たきりの高齢者を自宅にかかえる家族にとって、介護問題は益々切実なものとなりつつあるが、しかし、この「公的介護保険」が果たして本当に私たちの豊かな老後を保証する切り札となるのであろうか。

その全容については、まだ全て明らかにされていない部分があるが、すこし考えている

ことを述べてみたい。

その一つは、やはり基本的な財源は一般財源による介護の保障を第一に検討されなければならないという事であり、安易に費用負担を求めて欲しくないという事である。月額3万前後の年金給付を受けているものが受給者の約半分という現実を考えれば、この人達にとって大きな負担になることは間違いない。そういう点では、導入を急ぐ前にこうした問題を十分に検討して欲しいと思っている。

また、介護保険による保障についても、いわゆる現物支給（施設サービスやホームヘルパーサービスなど）だけでなく現金支給（要介護者への金銭給付）を行うのかといった大切な問題もまだまだ多く含まれている。要は、国民に関わるこれらの重要な問題を、良く分かる形で論議して欲しいと言う事であり、また、行政としての公的な責任も明確にしながら進めていただきたいという事である。ドイツが20年もかけて論議してきたようにとは言わないが、せめてもう少しは時間をかけて論議をお願いしたいものである。

奈良教育大生協

11月8・9日に恒例の食生活相談会を行い、多くの組合員の参加がありました。今回も大学学生課の栄養士さんと奈良在住の栄養士さんに協力をいただき、奈良での健康を考えるネットワークも広がってきました。

また、戦後50年を考える企画として12月13日には大学の講堂で「きけわだつみの声」映画上映会をおこない、組合員の参加だけでなく、地域の人達にも参加を呼び掛けました。約100名の参加がありました。

(足田専務理事)



教育大生協の学生委員たち



ならコープ



'95公開講演会での岡本祐三氏

21世紀に4人に1人の超高齢化を迎えます。ならコープでも『老人問題は女性問題』、『介護者の8割など重い女性の負担』などと言われる中で、福祉についての学習をすすめています。連続講座や組合員活動交流集会、公開講演会など今年度中に14回のべ1,800名ほどの方が参加して、介護者の体験談やならコープの福祉政策、また97年度導入予定の介護保険などについても理解を深め、今後のならコープの取組について考えています。

環境問題では、95年6月に『容器包装リサイクル法』が成立、96年6～9月頃までに各市町村で分別収集計画が策定される事が予想されます。リサイクル法でわたしたちの町がどのようになるのか、学習しながら行政との懇談も進めています。

被爆者や各国の世論を無視して、フランスなどは核実験を強行し続けています。緊急の呼び掛けになったにも拘らず『国際法廷署名』には65,000名の方から平和への願いと核兵器、核実験への怒りを込めた署名が寄せられました。

(新田組合員活動部課長)

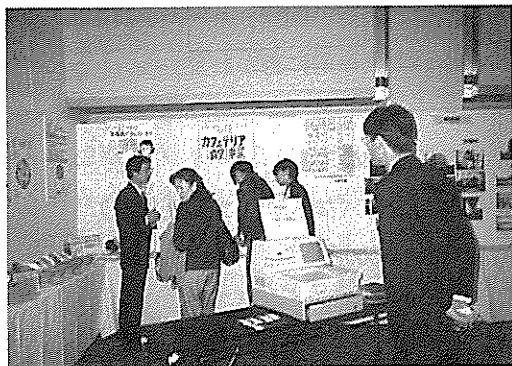
奈良女子大生協

今年の1月に奈良県立商科大学に生協が設立され、来年には奈良高専に生協が設立されようとしています。

私たち、京都、滋賀、奈良の大学生協では、生協のない大学の教職員の方々に生協に対する理解を深めて頂く機会として、また、生協設立のご相談にのるために「大学生協セミナー」を開催しました。

11月18日に、「コープイン京都」という大学生協の宿泊研修施設で、フードサービス事業や共済、コンピューターやLANなどの勉強研究サポート事業など6つのブースを設営し、今日と将来の大学生協の事業の姿を見ていただくことができました。当日は奈良県立商科大学の三島学長にも講演を頂き、生協についての参加者の理解が一層深まったと思います。奈良からは、奈良高専のほか奈良大学や樟蔭短大からもご参加頂きました。

(小林専務理事)



「コープイン京都」にて

労済生協

全労済(共済生協)では、12月を加入促進月間と位置づけ、キャンペーンを展開中です。

この期間中に窓口でマイカー共済等にご加入されますと、粗品をプレゼント致します。

また、長期的な取組みとして、生協の原点である全組合員の参加をめざし、「一人が一人紹介運動」を紹介者カードを使用し、展開中です。来年度は、中期計画策定の時期でもあり、この紹介運動を、中期計画のメイン活動にすえ、策定します。

(武本事業推進二課課長)



県連日誌



—お 知 ら せ—

12/2～3 ノーモア・ウォーのつどい
12/7 近畿地区生協・府県連協議会
12/12 県代表幹事会議（会長）
12/13 教育大生協共催映画上映会13

1/12 府県連協議会
1/22 関消懇

3/21 第4回理事会



申し込み問い合わせは

奈良県生活協同組合連合会

TEL0742-34-3535まで

「ならアース基金協会」会員募集

活動内容 アース基金への協力
奈良の環境問題の学習
月1回の会議等

94年度基金寄付者一覧表

ならコープ	仲宗根迪子氏
井上有一氏	奥西保信氏
岡橋四郎氏	武内哲夫氏
高島義秋氏	井上善雄氏
水木モリエ氏	

ご協力ありがとうございました。今後
も引き続きお願いいたします。

書籍のごあんない

『長寿と日本食』特別出版について
家森幸男著（京都大学 大学院教授）
生活ジャーナル社刊

定価 1,500円

日本食と長寿の関係、改善点、貢献度等
について具体的に書かれている

『意味を求めて』

伊藤次栄著（ならコープ常任顧問）

定価 1,000円

生協運動を通して市民運動の根拠を語る
生協運動に関わる人の指針となる必読書。

